

円田湖と円田珪藻土

— 200万年前、ここに大きな湖があった —

今から約370万年前のある日、この地で突如として私たちの想像を絶する巨大噴火が起こりました。その噴出物は現在の仙台市街地にまで及び、後には大規模なカルデラ（地下のマグマを噴出した後に出来る大きな窪み）を形成しました。その規模は現在の白石市福岡八宮から蔵王町小村崎にかけての長さ約15km、幅約10kmにも及び巨大なものであったと推定されています。

やがて奥羽山脈や東側の高館丘陵が隆起を始めると、カルデラの跡は大きな淡水湖になりました。現在の蔵王町円田・平沢・小村崎地区には、「円田層」と呼ばれる地層が分布しています。今から約200～100万年前に一帯が静かな湖だった時代の湖底の堆積物で、珪藻という植物プランクトン（藻の一種）のガラス質の殻を多量に含むことから「珪藻土」と呼ばれます。

この珪藻土は耐火性と断熱性に優れた素材として、耐火レンガ、セメント混和剤などの建材として利用されてきました。旧円田村の珪藻土は大変良質であるとして、明治時代後期から昭和30年代にかけて盛んに採掘され「円田珪藻土」のブランド名で出荷されました。その後、上部を覆う厚い地層が人力掘削の大きな障害となり採掘効率が低下したために現在では採掘されていませんが、近代から現代への移行期に地域の発展を後押しした貴重な地質資源でした。



初期の円田湖の範囲と円田層の分布範囲 約370万年前に白石カルデラが形成され、巨大なカルデラ湖となった後、奥羽山脈や東側の丘陵の隆起によって湖の範囲は徐々に縮小したと考えられます。円田層は約200～100万年前の堆積層で、約100万年前には蔵王火山も活動を始めました。約40万年前には湖の南西部に青麻火山が出現し、水域の大部分が火砕流などによって埋積され現在に近い景観となりました。



円田層の露頭 薄く水平な地層が幾重にも重なっています。濃色層と淡色層の一組で1年分の堆積を示します。